生産環境の悪化に堪えながら
酪農ひと筋に取組む人たち
～宮崎県都城市の酪農家たち～

河　見　泰　成

2年前描かれた理想図が もう崩れかけようとしている

去る47年10月，農林省から「農産物需給の展望と生産目標の試案」が公表されたことをご存知でしょう。その中の「需要と生産の概括的展望」の項に，次のように書いてあります。

“わが国の農産物需要は，国民所得水準の向上に伴って引き続き高度化，多様化しつつ増大を続けている。すなわち国民の食生活において澱粉質食品の比重が低下し，動物性食品，野菜，果実等の増大という質的変化が著しい。”

“また，個別品目の消費の変化については，35年度と45年度との間で1人当たり消費量は，穀類は減少し，特に米は45年度には35年度の82.8%に当たる95.1kgになっている。”

“畜産物はその増加がめざましく，牛乳・乳製品が2.3倍，肉類が3.4倍，鶏卵2.4倍となっている。また野菜は1.2倍，果実1.7倍に増加している。（中略）このような食料需要の高度化・多様化の傾向は，国民所得水準の向上とともに，今後も持続するものとみられる。”

とし，1人当たり消費量は，45年度から57年度（目標年度）にかけて，牛乳・乳製品，肉類はそれぞれ約1.5倍と2.0倍，果実は1.4倍に増加すると，澱粉食品である米の減少をよそに，牛乳・乳製品や肉類の消費量が増大することをうたいあげております。

ところがあれから2年後の今年末までに，51年を初年度とし60年を目標年度に“農産物の需給見通し”を見直す必要があろうということに，農政の方針が転換することになります。理由はいろいろありますけど，単的に云えば，“食生活の西欧化には限界があり，やはり米食に依存するわが国独自の食生活パターンが今後も続く…。”からということらしいです。

なるほど，47年10月公表された資料の冒頭には，“はしがきに述べられているような考え方と，前提のもとで作成したものであって，農業生産の計画を示すものではない。”から，“これらの数値を見る場合には，以上の点を考慮に入れる必要がある。”という但書がついております。

公表する側―すなわち原案策定者（この場合もちろん農林省ですが―。）として，これは当然すぎる配慮です。しかし，農政或は農業の基本方針と云うものは，農林省自らを納得させるためのものではなくて，あくまでも農業者のためのものであるべきだと思います。

或は独断に過ぎるかも知れませんが，当局の折角のご配慮にも不均，あの資料が公表された以後，全国少からぬ数の酪農・畜産農家が，自分の経営方針を，あの「農産物需給の展望と生産目標の試案」を参考に検討し直したと思いますが，どうお考えですか？

私達はそういう酪農・畜産農家に対して，“あの資料に記載されている“条件”を鵜呑（うのみ）にしたからいけないのですよ…。”と難詰する資格はないと思います。その規模の大小にかかわらず，経営は経営であって紙とペンさえあれば推進し得るような作業ではないからです。

2年前に予見された「農業の理想図」も，やがてはかなくも消え去ろうとしています。のみならず，1月1日現在の総農家数（沖縄県を除く）は502万7,000戸で，前年より1.4%（7万3,000戸）減ったと云われます。また，農業就業人口も801万8,000人で，前年より5.5%（40万9,000人）も減ったというニューズを聞くにつけ，どちらかと云えば楽天家の私も，この頃と角憂うつをかこち勝ちなのです。

私が描いたイメージ通り 落付いた街・都城市

こんな感慨を抱きながら去る7月15日の朝，日豊線宮崎駅に着きました。用件というのは，これから車で都城市へ行き都城市農業協同組合と，管内の何人かの酪農家を訪問して，飼料作物の肥培管理について取材かたがた，酪農家の心構えなどを伺おうという訳なのです。

前夜来車窓を激しく叩いていた雨は，佐伯駅（大分県）を過ぎる頃には，やや不安定ながら青空が見えはじめ，宮崎駅に着いたときは“晴れ男”の到着にふさわしい，しかも春から一っ気に盛夏に突入したようなカンカン照りです。

宮崎駅頭にはチッソ旭肥料（株）延岡出張所の染谷さんが出迎えて呉れました。宮崎市近郊？の新富町にハウ

ス栽培の果菜類を取材したのを，つい最近のことと思っていましたが，あれは確か47年秋のことですから，足かけ3年になる訳で，時の経過の早いのに我ながらびっくりしました。

小休止の後，私達は宮崎をあとに“道はよくありませんが，こちらの方が遙かに近いので…。”と染谷さんが説明される国道10号線を一路，都城市を目指しました。

宮崎市街をあとに暫らくの間は晴れて快的なドライブを楽しんでいたのですが，次第に山あいに入って行くと，あたりが暗くなって，やがてお互いの声が聞えなくなるようなドシャ降り。山の中で（しかも気まぐれな今年の梅雨は，あちこちに大きな爪アトを残していましたし…。）のこういう経験は，これまでの取材旅行中はじめてなので（実はテレヴィで放映される河川の氾濫や山崩れのシーンが浮んできて…。）都会育ちの私は実はドキドキしていたのです。

幸い対向車も，前後にも車がなかったので，幾らか気は楽でしたが，ワイパーも殆んど役に立たなくなるくらい降るのには弱りました。ところが，2分か3分も続いたかと思うと，サッと雨が上がり，青空がのぞいたと思うと，今度はまた馬の脊を割るようなドシャ降り…の繰り返えし。

山間部を抜けて平野部に来ると，だいぶ安定的で，雨雲はいま通ってきた山なみの中腹あたりに見えるだけで，カッと陽光が照りつけてきました。“もうすぐです…。”と染谷さんに声をかけられ，気がつくと，私達は雨にあらわれてすがすがしい都城に入っており，ほどなく都城市農業協同組合(上川東3丁目)に着きました。

私はかねて都城（みやこのじょう）という呼称から，自分なりに勝手に詩的なイメージを描いて，あこがれに似た感じを持っていましたが，ここはかって島津支藩の城下町であったこと，また戦前も連隊があったように，現在でも自衛隊が駐とんする軍都であるということが醸（かも）し出すのでしょうか，落ち着きのある肌合いの街でした。島津支藩の城下町であった関係で，宮崎県内にありながら，ここだけが鹿児島弁だということなど，この街の個性を押出していると思います。

農協販売高の70%以上が酪農・畜産部門で占める

染谷さんについて農協の事務所に入る。明るい南国の陽指（ひざし）のもと，折からの農繁期を迎え皆さん何かと忙しい時間を割いて頂いて，農産課の野崎一夫課長，畜産課の吉川一信課長，全課酪農係の椎木秀雄係長，益留徹主任の皆さんからいろいろ伺いました。（野崎，椎木さんらは，手離せぬ所用があるとかで途中他出されました。）

“当農協管内の酪農は26年頃，市が勧奨したのが最初で，30年か，32年頃から農協がいろいろの制度資金を貸付けるようになって，今日に至っとるのです。今日では宮崎県下では第4位，九州管内で第8位に位置付けされるまでになった次第です。”

“元来，いや今でもこの辺は農業地で，米，里芋，ゴボウ，食用甘藷，その他若干の加工野菜，或は施設野菜などの園芸作物のほか，養蚕，花木など栽培しとりますが，酪農・畜産がどういうウェイトを占めとるか，当農協の販売品の取扱高をまとめますと…”

と示された数字を整理しますとこの表のようになりま

都城市農業協同組合販売品取扱高（千円）

年次	米	園芸特産	澱粉	生乳	鶏卵	肉畜	計
44	739,949	113,048	240,885	333,756	189,262	535,939	2,152,839
45	656,279	179,728	175,719	399,058	252,138	648,463	2,311,385
46	498,502	177,788	204,787	456,501	327,730	989,401	2,654,709
47	679,511	177,950	181,458	526,490	334,421	1,358,982	3,258,812
48	1,011,760	234,636	113,894	631,169	451,695	2,318,675	4,761,829
49	973,411	262,329	125,580	761,705	641,070	2,865,808	5,629,903

49年度は計画

都城市農業協同組合購買品取扱高（千円）

年次	生活	施設	機械燃料	農産	畜産	計
44	60,059		175,537	249,572	481,500	966,668
45	68,454		300,351	270,532	693,840	1,333,177
46	82,662		425,489	279,696	872,507	1,660,354
47	77,305	213,618	501,990	295,276	1,192,063	2,280,252
48	109,404	236,686	871,142	354,610	1,793,696	3,365,538
49	144,470	305,700	880,336	405,000	2,504,373	4,239,879

49年度は計画

トウモロコシの施肥設計

肥料名	荷姿	施肥量 基肥	施肥量 追肥	目標収量
燐硝安加里1号	20kg	60kg		8,000kg
熔燐	20	60		
硅カル	20	120		
堆肥		2,000		
NK 68号	20		40kg（5葉期）	
成分量	N15.4 P21.0 K14.4			

ソルゴーの施肥設計

肥料名	荷姿	施肥量 基肥	施肥量 追肥1	施肥量 追肥2	施肥量 追肥3
燐硝安加里1号	20kg	60kg			
熔燐	20	60			
硅カル	20	120			
堆肥		2,000			
NK 68号	20		20kg	20kg	20kg
成分量	N18.6 P21.0 K18.0				

す。また48年度の構成は畜産71.4%（肉畜48.6%，卵9.5%，生乳13.3%）に対し農産28.6%（米21.3%，園芸特産4.9%，澱粉2.4%）となっていて，酪農・畜産関係の急激な伸びがハッキリ判ります。

この傾向は農協の購買品の取扱状況にも強く出ております。表をご覧下さい。

これでも判るように，やはり酪農・畜産関係のウェイトが大きく，たとえば48年度の実績を見ますと，酪農・畜産53.3%（濃厚飼料90%，作物種子10%）に対し機械燃料25.9%，農産10.6%（肥料と農薬）施設7.0%，生活3.2%となっております。つまり都城市農協の経営基盤は文字通り，酪農・畜産の上に成立っていることがよく判ると思います。

…だが，年々目立つ過疎化現象の増加傾向

"当農協管内の酪農家は49年度現在250戸，牛乳飼養数は3,300頭（うち成育2,500頭で，この70～80%が搾乳牛）で，48年のそれに比べると，頭数こそ80頭増えちょりますが，戸数は逆に30戸も減っとります。それどころか，47年の酪農家戸数は365戸でしたから，通算するとこの2年間で115戸が酪農経営を放棄したことになる訳です…。あとで現地へ行かれたとき，どこかでこの点について耳にされると思いますが…。"

この話を聞いたとき私は何か肌寒い感じがして参りました。一般農産資材の値上りはとも角として，殆んど2倍近い配合飼料価格の高騰は，まだ底の浅いわが国の酪農・畜産農家の経営に，正に致命的と云っても良いほどの痛打をあびせました。いわゆる「原料高の製品安」から何時になったら脱却できるかその見通しも容易にたて難いし，第一，米のように強固な保償の裏付けがない。とすれば"次第に過疎化現象が目立つのも無理がないとです。"ということになる訳です。

それでも，酪農家の½は専業で，36の振興班によるガッチリ固めた組織と，酪青研（酪農青年研究会）に拠る後継者を含む青年達が活発に動いているのです。この動揺期に酪青研の皆さんが今後どう対処して行くか注目されます。

振興班：これは正式には都城市農業協組合振興会の第何班と云うことになるのでしょうが，5つの支所（中央，五十市，祝吉，沖水，志和池）に所属しており，1班は7～3名で構成されていて班ごとに業務が処理されるようになっています。このほか部落座談会を適宜開催したり，年に4～5回班長会を開くことになっているそうです。

なお毎日集荷された牛乳は市乳向，給食用向，県外向，加工用向けに区分され出荷されます。市乳向けは雪印乳業だそうです。

飼料作物の栽培と肥料：酪農・畜産に配合飼料は欠かせない資材ですが，これだけに頼っていては経営的にも生理的に問題があるので，一般に飼料の6割程度を飼料作物で給餌するのが普通です。そこでこの都城市一帯でも春夏作にはトウモロコシ，ソルゴーを，また秋冬作としてカブ，イタリアンライグラスなどを播種しております。

燐硝安加里1号を主体とした施肥設計は，別掲の表を見て頂くとして，栽培概要を示すと次の通りです。

1. トウモロコシ：青刈用＝①品種　県奨励品種，②播種量　5kg/10a，③播種期　4月上旬，④栽植密度60cm/条，⑤ナック粒　3kg/10a，本葉3～4葉期

サイレージ用＝①品種　同前，②播種量　3kg/10a，③播種期　4月上旬，④栽植密度　75cm×25cm　5月下旬　2本立，⑤ナック粒　3kg/10a，本葉3～4葉期

2. ソルゴー：①品種 交雑種，②播種量 3kg/10a，③播種期　4月下旬～5月中旬，④栽植密度　60cm条　追肥　第1回播種40日目　第2回以降は刈取後

3. イタリアンライグラス：①播種期8月下旬～9月下旬，②播種量　3kg/10a，③播種法　散播，追肥　1回目　播種後30～50日　2回目は刈取後

4. カブ：①播種期　8月下旬～9月上旬，②播種量　0.3kg/10a，③播種法　60cm条，④間引き　1回目発芽後10日　2回目同30日，追肥　1回～2回目間引後，2回目播種後60日前後　株間20～25cmにする。

なおこの頃ではローズグラスその他も播種する場合があるようです。

燐硝安加里が施肥設計に組み入れられたのは，去る38年頃と云われていますが，飼料作物栽培に取入れられる

イタリアンライグラスの施肥設計

肥料名	荷姿	施肥量			
		基肥	追肥1	追肥2	追肥3
燐硝安加里1号	20kg	60kg			
熔燐	20	60			
硅カル	20	120			
堆肥		2,000			
NK 68号	20		20kg	20kg	20kg
成分量	N18.6	P21.0	K18.0		

カブの施肥設計

肥料名	荷姿	施肥量			
		基肥	追肥1	追肥2	追肥3
燐硝安加里1号	20kg	60kg			
熔燐	20	60			
硅カル	20	120			
堆肥		2,000			
NK 68号	20		20kg	20kg	
成分量	N15.4	P21.0	K14.4		

ようになってから消費量が急速に伸びて，現在，宮崎県内向け燐硝安加里の約4割が，都城市およびその周辺に出荷されているそうです。

市農協での話は一応終って午後3時過ぎ，畜産課の益留徹さんに先導をお願いして私達は，都城市大根田部落の米長一美さんと福留利盛さんの，隣り合ったとうもろこし畑を訪れました。

米長さんは昭和27年から，福留さんは31年から酪農専一に取組んでこられた方達です。云い合わしたように，"ちょっと天候が不順じゃったので，育ちはええとは云えんとですが…。こと肥料に付ては，農協の方針通りやっとるで問題ないですよ。(お互いに肯ずき合う。)それよりも，政府は酪農・畜産に対してもっとハッキリ方針を決めて貰わんことにゃ，とてもやり切れんです。と云うて…。"

政府の酪農対策確立を要望する米長さん

米長さんも福留さんも，酪農はやり貫くと力強く語りました。なお福留さんの畑はとうもろこし単播(4月播)，米長さんの畑はとうもろこしとソルゴーの混播で，これは乳牛の栄養を考えてのことだそうです。

後継者に恵まれた福留さん

このあと私達は早水部落にある中村勝美さんのお宅を訪れましたが，時刻はちょうど4時。夕方の搾乳の時間にぶつかったので，"ご無礼じゃが家内とご一緒して下さらんか"と云うことで，奥さんのご案内で畑へ…。

米長さんのとうもろこし畑(ソルゴーとの混播)

福留さんのとうもろこし畑(単播)

中村さんの畑はとうもろこしと豆類(品種は聞きもらした。)との混播。酪農との取組みは昭和28年，貸与乳牛1頭の経営から始まったのだそうです。中村さんの経営の最も特長的な点は，その"企業的"な点にあります。各自の分担を決めて…。(たとえば奥さんは専ら家事一方を受持つというように。)1日の仕事は5時に終え，あとに残さないこと。1ケ月遅れで，毎月25日に乳代が農協から入金するので，その日を月給日とし4人の就業者(中村さん，奥さん，息子さんとおじいさんの4人)に給料を支払うという段取りです。"ここも，つい最近まで水田じゃった所で…。そう3aありますが，"どうか使って下さらんか？"と云うて農業から離れて行かれる方が，この頃だいぶ目だつようになったとです…"と奥さん。

水田放棄をなげく中村さんの奥さん

水田あと地は物云わねども……

帰えりぎわお目にかかったご主人は，"燐硝安加里という肥料は，粒状になっとるし，機械まきには非常に適してると思います。またその肥効の点も申分ないと思いますなあ…。"と燐硝安加里の肥効について語っておられたが，別掲の水田あと地の写真は何かを訴えているように思えてなりませんでした。

あとがき　長かったことしの梅雨もようやく上って，やっと夏らしい陽ざしが照りつけるようになりました。が，どうやら東北方面の水稲には，やはり懸念された葉いもちの多発が報ぜられております。

アメリカの大豆輸出規制，石油ショック以後，日本は何もかも変りました。農業も2年前に画かれた57年の生産指標がここで変ろうとしている。いや変えなければいけないような状態になろうとしています。この重要な時期をどうかお元気に活動されますようお祈り致します。　(K生)